2022 年 11 月発行

LAZONA ラゾーナ 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会　歴史文化部会

第20回 続・緑ヶ丘球場

緑ヶ丘球場から巨人軍へ 幻のエース広瀬習一

1939（昭和 14）年１月５日、緑ヶ丘球場で春の選抜大会の代表を選ぶ「京滋中等対抗野球大会」が開かれました。

滋賀県から大津商業、膳所中学、八幡商業、京都から平安中学、京都商業、京都師範が出場。大津商業は２勝１敗でしたが、前年夏の全国大会優勝の平安中学を下した実績が評価され、悲願の甲子園出場を果たしました。

大津商業は第16回選抜大会で小倉工業と対戦しますが、ショートを守る広瀬習一をはじめ大津商業ナインは甲子園の大観衆に飲まれて敗戦します。

大津商業を卒業した広瀬は旭ベンベルグに入社しますが、1941(昭和 16)年 7 月、入団テストを受けて巨人軍に投手として入団します。

８月 21 日、広瀬は衝撃のデビューをします。初登板初完封勝利。読売新聞は「広瀬初陣に快投」と報じました。

広瀬習一（東京巨人軍）

【投球・打席】
右投右打

【ポジション】
投手

【プロ入り】
1941（昭和 16 年）

【成 績】
・1941（昭和 16 年）
８勝４敗　防御率 1.61
・1942（昭和 17 年）
21 勝６敗 防御率 1.19

●たくさんの人でにぎわった緑ヶ丘球場

巨人軍のエースとなった広瀬ですが、戦争が激しくなり、召集令状が届きます。そのころ野球は「敵性競技」とされ、広瀬は愛用のグラブとボールを背嚢にしのばせて持って行きました。戦場はフィリピンのレイテ島で兵員約 13,000 人のうち生還者は 620 人という激戦地でした。広瀬は川を渡る途中に銃撃を受け戦死します。

遺族に届けられた白木の箱に遺骨はなく、グラブの親指の部分にフィリピンの土が詰められていました。享年 22 歳でした。

(参考・引用図書)
上田　龍 著「戦火に消えた幻のエース」
新日本出版社

（文・くさかわてつお　写真提供・海老池博司）

～余話～

高校野球地方大会は第１回～37 回大会までは「京津（けいしん）大会」、第 38 回～54 回大会までは「京滋（けいじ）大会」と名称が変わり、第 56 回～59 回大会は福井と滋賀で１校選ぶ「福滋（ふくじ）大会」、第 55 回と第 60 回大会以降は１県１代表の制度となり今日に至っています。

（文・松井佐彦）

バックナンバーご希望はコミュニティセンターまで

【LAZONA】〈ラゾーナ〉▶スペイン語で Lazo(ラソ)「縁、繋がり、絆、結合を表す語」と Zona(ソナ)「地域を表す語」を組み合わせた造語です。